

中学校への不安を少なくするために

— 中学校接続を意識した自立活動の指導の工夫 —

1

本実践に関連する児童生徒の実態

対象 小学生

○課題

- ・初めての経験に対して、強い抵抗感がある。
- ・中学校での学習や生活に不安がある。
- ・同級生に対して、うまくコミュニケーションがとれない。

○強み

- ・興味をもったことには、探究心があり、知識が豊富である。(歴史、電車、競馬など)
- ・下級生に対して、相手のことを考え、優しく接することができる。
- ・学校の仕事を進んで行う。

2

指導目標・指導仮説

教科等及び単元(題材)名
自立活動「中学校へ行こう」

目標(本実践終了時の期待する子供の姿)
中学校への不安が少なくなり、希望をもって進学しようとする。



指導仮説
中学校へ行き、授業の様子を見学したり、実際に授業を受けたら、中学校への不安が少なくなり、希望をもって進学できるだろう。

児童生徒の実態

3

指導仮説の具体的な内容と評価内容・方法

◆指導仮説の具体的な内容

中学校への不安を少なくするために、第6学年の1学期、2学期に1回ずつ、進学先の中学校特別支援学級へ体験入学を行う。体験入学では、学校巡りをしたり、中学校の教員に質問をしたりして、不安を取り除けるようにする。

◆評価方法(どのような方法で何を評価するか)

体験入学のワークシートに、「振り返り」「感想」を記入させ、中学校に対する希望や不安について見取る。

4

指導の実際①

事前・事後学習用ワークシート

バスの時刻やバス代を記入する。

中学校で聞きたいことを記入する。中学校との打ち合わせで、事前に伝えておく。

5

指導の実際②

学校へ行こう1 7月8日実施

掲示物

クールダウンするスペース

畑



Aくんが、中学校への不安を少なくすることができた場所の例。

学習の成果をまとめて、掲示した。

6

指導の実際③

学校へ行こう2 11月18日実施

事前・事後学習用
ワークシート

「どのような授業を受けたいか?」「心配なこと」などを記入。

自立活動
「クリスマスかざりをつくらう」



中学校の特別支援学級の生徒1名と一緒に授業を受ける。

7

指導の実際④

先生方に質問



「英語科では、どんな教材を使いますか?」
「体育科では、どのような内容の授業をしますか?」

掲示物



授業体験の様子、先生方への質問、児童の感想等をまとめる。

8

実践前後での児童生徒の変容

実践前	実践後
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の進学に対して不安なことが多い。特に、教科の内容や部活についての不安がある。 ・初対面の人に対して、緊張して、うまく話をするができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の進学に対して、教科の内容や部活についての不安が少なくなった。 ・初対面の先生に対しても、きちんとあいさつをしたり、会話したりすることができた。

9

評価

- 児童生徒は目標を達成したか。
 - ・目標を達成できた。
中学校生活への不安を減らすことができた。
- 判断の理由・根拠
 - ・ワークシートの感想・振り返りに「中学校への不安が少なくなりました。中学校の生活は慣れれば大丈夫だと思いました。」と書かれていた。

10

指導仮説の検証

●指導の成果

- ・中学校の見学を行ったり、実際に授業を受けたりする活動を仕組むことにより、児童の中学校への不安を減らすことができた。

●課題

- ・該当児童は、交流学級で授業を受けることに抵抗をもつことがある。次回(3学期)の体験入学は、通常の学級の児童や他校の児童といっしょに授業を受けたり、説明を聞いたりする。
- ・中学校の特別支援学級への一日入学は、4月初めに年間行事として計画されていたものではなく、児童の実態や願いから中学校へ依頼して実施した。事前打ち合わせを綿密に行い、より児童の実態に合った授業ができるよう、早めに計画しておく必要があった。

11

指導の改善案

●成果・課題を踏まえた改善案

- 来年度も、江田島中学校に進学予定の児童がいるので、特別支援学級の「一日入学」を実施できるように中学校に願います。
- また、同じ中学校区の小学校にも、特別支援学級に在籍している第6学年児童がいる。
- 来年度は、中学校区の小学校・中学校が連携をして、できれば同じ日程で、特別支援学級の「一日入学」を実現していきたい。

12